

農山村景観を再生する住民主体型むらづくり活動の支援

Support to the Village Community Activity Reforming Rural Landscapes

○堀田 幸 松本 康夫 五藤 三保子

Sachi HOTTA, Yasuo MATSUMOTO and Mihoko GOTO

．はじめに

農村地域の過疎化や高齢化に伴い、資源の適正な維持管理が困難となってきた。農村地域の再生と活性化を図るためには、住民自らが優れた資源を地域固有の貴重な資源として捉えたうえで、創意と工夫をもって地域の産業や活力の再生に結びつけていくことが求められている。本報では、地域資源を構成する農山村の景観に着目し、住民主体で農村景観を活かしたむらづくり活動を行っている岐阜県郡上市明宝小川地区を対象に、既存文献及び古老への聞き取りによって地域資源マップを作成するとともに、ビデオ撮影によるシークエンス景観特性を分析し、今後のむらづくり活動の支援方向を検討した。

．対象地区概要と地域資源

小川地区は、岐阜県郡上市明宝の東部に位置し、標高 912m の峠に阻まれた孤立山村である。集落は Fig.1 に示したように弓掛川等の源流をなす溪流の段丘上に沿って形成されている。かつては林業や林産物で栄えたが、人口は 1985 年の 334 人、92 世帯から 2002 年には 251 人、79 世帯に減少した。また、2002 年の高齢化率は 37.5%である。

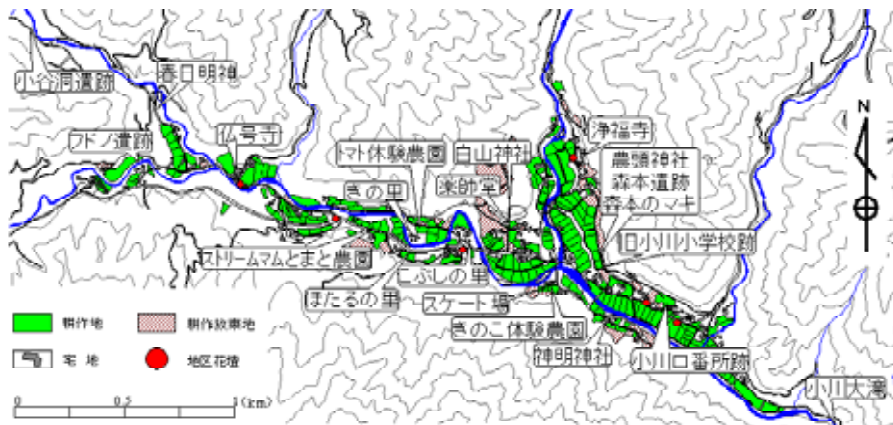


Fig.1 地域資源マップ

地区には、白山神社をはじめとして、春日明神、神明神社、熊野権現等の社寺と小川大滝を代表とする7つの滝があり、かつては7つの字ごとに7社7滝があった。また、縄文遺跡が多く、現在はドノ遺跡、小谷洞遺跡、森本遺跡が伝えられている。民家脇に残された古街道には、小川口番所跡の石碑が残されている。1975 年前後に圃場整備を終えており、最寄り溪流から取水する用水路は老朽化しつつあるが、耕作放棄地は少ない。

．景観特性

集落内を縦貫するバイパス（約 4.0km）と旧街道（約 1.5km）に沿って広角ビデオを撮影した。映像からシークエンス景観の構成要素の変化を追跡した。景観は、地形や山林等の自然的要素、社寺や遺跡等の歴史的要素、民家や田畑、水路等の生活的要素、花壇や遊

Table1 シークエンス景観の構成要素

(1) バイパス									
景観	構成要素	第1区	第2区	第3区	第4区	第5区	第6区	第7区	第8区
自然的	針葉樹	+++	+++	+++	++	++	++	+++	++
	広葉樹	+++	+++	+++	+++	+++	++	++	+++
	溪流	-	-	+	++	+	+	-	+
歴史的	石碑	-	-	-	-	1	-	-	1
	耕作地	-	-	++	++	++	++	++	+
	水路	-	-	-	-	-	+	++	+
生活的	耕作放棄地	-	-	-	-	-	+	+	+
	資材置き場	-	-	-	-	-	-	+	+
	民家（在来）	-	3	4	4	7	6	9	-
	民家（新築）	1	-	-	-	2	1	1	-
	街灯	0	1	2	1	6	4	3	1
	消火栓・防火槽	1	0	0	1	2	5	2	0
	ガソリンスタンド	-	-	-	-	1	-	-	-
	消防署	-	-	-	-	1	-	-	-
	墓地	-	-	-	-	1	-	1	1
	取水口	-	-	-	-	-	2	-	-
	商店	-	-	-	-	-	1	-	-
	自動販売機	-	-	-	-	-	1	-	-
むらづくり活動成果	牛舎	-	-	-	-	-	-	-	1
	花壇（個人）	-	-	-	-	1	3	4	-
	花壇（地区）	-	-	1	1	1	1	1	-
	ストーリー・ムサム農場	-	-	-	1	-	-	-	-
	きのの里	-	-	-	1	-	-	-	-
	こぶしの里	-	-	-	1	1	-	-	-
その他人工物	あまご養殖場	-	-	-	-	-	-	1	-
	落石防護柵	+	+++	+	+	-	-	-	++
	法面（草本）	++	+	++	+	+	+	-	+
	山留土（コンクリート）	++	-	-	-	-	+	++	++
	土留土（木柵）	-	++	-	-	-	-	-	-
	石垣	-	+	-	-	-	++	++	+
看板		0	2	3	3	3	0	3	0

(2) 旧道									
景観	構成要素	第1区	第2区	第3区					
自然的	針葉樹	++	++	+++					
	広葉樹	+++	+++	+++					
	溪流	+	++	+					
歴史的	仏号寺大イチョウ	1	-	-					
	仏号寺	1	-	-					
	石碑	1	-	-					
生活的	耕作地	+	+	++					
	水路	+	-	-					
	耕作放棄地	-	+	+					
	民家（在来）	-	4	6					
	街灯	2	4	3					
	消火栓	3	2	4					
	防火槽	4	2	4					
	水車	1	-	-					
	ポンプ場	1	-	-					
	花壇（個人）	1	-	-					
	花壇（地区）	4	2	2					
	遊歩道	-	-	1					
その他人工物	法面（草本）	+	++	+					
	山留土（コンクリート）	+	-	-					
	土留土（木柵）	-	-	-					
	石垣	-	-	+					
看板		3	0	1					

+++：区間内に70%以上存在

++：30～70%存在

+：30%未満存在

数値は要素数

区間は峠を下った集落口から約500mごと

歩道等のむらづくり活動成果，その他の人工物によって構成されている。Table 1 には，各道を 500m ごとに区分し，ビデオ映像から確認することができた景観要素を示した。小川峠を下ると，バイパスに沿って針葉樹林帯が広がるビスタ景観から，次第に民家，トマト農園，宿泊施設，農産物加工施設，商店と続き，地区の中心部を過ぎると田畑と民家の広がるパノラマ景観になる。集落を抜けると再び樹林帯が続くビスタ景観になっている。溪流に沿った旧街道には，散在形態の集落を縫うように，水船のある民家や社寺，田畑等の山村生活に密着した景観が展開する。さらに，大イチョウや岸边桜が点景を構成する。

・むらづくり活動の概況

1972 年，小川小学校の花壇づくり表彰から住民主体の景観整備の機運が高まり，集落を美しくしようとする活動へと広がった。むらづくり活動は，地元の青壮年層の任意集団であった「^{にーいちかい}21 会（1989）」、「^{くじゃくかい}区若会（1992）」が手がけるようになったが，自治規範を超えた活動に支障があり，1999 年，集落組織の中に「小川ふるさとづくり委員会」が正式に位置づけられた。現在は「小川ふるさとづくり委員会」が活動の企画・立案を行い，活性化組合や森林組合，老人クラブ等の集落組織，小学校，PTA が相互に連携・協力を図りながら活動を進めている。活動内容は，花壇づくり，ハナモモの植栽，除草，間伐等の景観保全活動や農地受託，新規就農者支援，白山神社の祭礼，演劇クラブによる地芝居等の伝統文化の継承等がある。さらに，2003 年，ロッジ風宿泊施設「小川きの里」が完成し，来訪者を対象とした体験農園やあゆ祭り等の都市・農村交流活動が行われるようになった。

・今後の展開

今後は，「小川きの里」を拠点として，都市住民に開かれた交流活動を目的としたむらづくりが志向されている。2007 年，小川トンネルの開通を控え，「小川ふるさとづくり委員会」は，小川峠の旧街道，集落をめぐる散策道と案内板といった住民，来訪者を対象とした整備を進めつつある。集落内には縄文時代から連なる地域資源が豊富に継承されており，古民家や用水路等の生活要素，花壇や遊歩道等のむらづくり活動成果等，新たな農山村景観の再生につながる素地に恵まれている。一方で，集落を縦貫する新たなバイパスは，農山村の豊かな生活景観や地域資源に気付かないまま通過交通になるきらいがあり，集落の歴史や生活を体感できる旧街道へ来訪者の散策を誘導する沿道施策が望まれる。